日刊工業新聞

年月日	17	03	21	ページ	03	NO.	

凛としていきる

理系女性の挑戦

電子顕微鏡で材料分析

失敗の苦労より闘志勝る

リコーが保有する材料を分析し、結果を開発者に提供する仕事をしている。メーカーの顔である商品からほど遠い業務だが、この仕事にやりがいと面白さを感じている。

入社当初、プリンターの設計開発部門に配属された。大学の専攻と全く異なる業務内容に戸惑ったが、チームで一つの商品を作り上げる経験は新鮮で楽しかった。構想段階から商品が出来上がっていく過程で先輩たちから多くのことを学んだ。

現在は「分析業務がどのように商品に貢献できるのか」「開発に必要な分析技術とは何か」を第一に考えて仕事をしている。お世話になった先輩方に恩返ししたい気持ちと同時に、「商品に携わる一員である」との実感を持ちたい思いがあるからだ。これが私のモチベーションとなり、仕事にやりがいをもたらしている。

大阪大学の超高圧電子顕微鏡も利用した

私は分析技術の中でも、透過型電子顕微鏡を使った局所観察を専門としている。観察する前の試料処理が重要で、処理方法によって目的のものが見えるか否かが決まる。場合によっては試料処理だけで1週間以上かかることもあり、祈るような気持ちで装置に入れた揚げ句に何も見えず、検討し直すことも多々ある。

だが、難しい試料であるほど失敗の苦労よりも闘志の方が勝る。「絶対見たい」という好奇心に駆り立てられすぐに次の手を考え始める自分がいる。この地味な試行錯誤に小さな幸福を感じている。

子供の頃、私は1歳上の兄と毎日外を走り回り、よく虫や魚、トカゲなどを捕まえて遊んでいた。捕まえた獲物を家で飼育しながら図鑑片手にじっくり観察することが好きだった。

珍しい虫や捕獲難易度の高い虫を見つけた時の興奮、捕獲策を考えるときのワクワク感と闘志、手にとって観察したいという好奇心は今でも鮮明に覚えている。

おそらく虫捕りをしていた子どもの頃の自分と、仕事をしている現在の自分の根底に流れる志向は年月を経ても変わらず、夢中になれる部分が一緒だからこそ、純粋に楽しいと思えるのだ。

役に立ちたい思いと好奇心の両方を満たす仕事であるがゆえ、この仕事にやりがいと面白さを感じている。

企画協力・日本女性技術者フォーラム（JWEF）

（火曜日に掲載）

△▽

リコー未来技術研究所 分析技術研究室 分析1Gグループリーダー
村上（むらかみ） 和歌子（わかこ）

〈プロフィル〉02年東工大院材料工学専攻修士修了、同年リコー（＊）入社。設計開発職に従事後、08年研究職に。15年より現職。＊JWEF法人会員。

無断転載・複写禁止©㈱日刊工業新聞社